

柏市地域包括支援センター事業評価のまとめ

地域包括支援センター名	令和2年度 柏市地域包括支援センター事業評価の講評	令和3年度 柏市地域包括支援センター機能向上に向けた支援
柏北部	<ul style="list-style-type: none"> ケアプランチェックリストを活用し、自立支援に向けたプラン作成及びサービス利用の提案等を実施し、自立に向けたサービスの卒業につなげることができた。 地域課題にある「新旧住民の交流の場がない」からサロン「ほっこりかなた」の立ち上げ、新設予定の小学校のラジオ体操の開催準備へとつながった。 「オレンジSOSネットワーク協力事業所」と「カシワニオレンジステッカー」の同時登録の推進やオレンジフレズによる「カフェ花福」や「オレンジ散歩」を支援する等、地域の認知症の支援体制の構築に努めた。 フレイル予防に関する動画を制作し、SNSでの配信を通じ、コロナ禍におけるフレイル予防の普及啓発を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に要援護者が避難できるよう、地域住民や関係機関がどのような連携が図れるか検討できるよう支援する。 昨年度まとめた「たなか発見2020」に掲載された地域課題に基づき、ケース抽出を円滑に行うことで地域ケア会議が計画的に実施されるように支援する。
柏北部第2	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談等を通じ、フレイル予防が必要とされる高齢者を把握し、フレイル予防応援プログラムに積極的につないだ。 意思決定支援をテーマとした研修を開催することにより、担当地域内のケアマネジャーに在宅医療・介護連携への意識づけが図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> センター独自の社会資源マップの作成を支援し、相談者や地域関係者へ情報提供や活用がなされるよう支援する。 総合相談の分析を詳細に行い、各事業の計画に反映できるよう支援する。 地域課題の整理を行い、ケース抽出を円滑に行うことで地域ケア会議が計画的に実施されるように支援する。 虐待防止について、地域のサロンや関係者等へ普及啓発ができるよう支援する。
北柏	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での情報発信としては先駆的にSNSを活用し、成年後見制度や消費者被害予防、フレイル予防の普及啓発に努めた。 認知症の相談者に対して、電話掛けやフレイル予防パンフレット・認知症事業の案内資料送付による、定期的・継続的アプローチを重ね、約9割の相談者を何らかのサービスにつなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援型のケアプランの作成ができるよう、インフォーマルサービス位置づけの現状の把握やケアプランチェックリストの活用できるよう支援していく。 認知症のかたが適切な支援につながるよう、電話や資料送付による定期的な関わりを継続するとともに、支援につながっていないかたをリスト化し把握できるよう支援していく。
北柏第2	<ul style="list-style-type: none"> 担当地域のほぼ全自治会町会の定例会へ積極的に訪問し、関係構築を図り、前年度よりセンターの認知度を上げることができた。 「オレンジSOSネットワーク協力事業所」と「カシワニオレンジステッカー」を一体的に推進し、地域の認知症の見守り体制の構築に努めた。 総合相談等を通じ、フレイル予防が必要とされる高齢者を把握し、フレイル予防応援プログラムに積極的につないだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当地域の介護支援専門員が予防プランに社会資源を位置付けるための資源情報の収集や、活用方法の啓発がされるよう支援する。 地域の高齢者の問題が深刻化する前に関わるために、地域関係者と連携しセンターに相談することができるよう支援する。
柏西口	<ul style="list-style-type: none"> 要援護者の重度化防止のためコロナ禍でも可能な限り定期巡回を行い、個別支援につなげることができた。また、定期的に要援護者の台帳管理を行った。 世代を問わず支えあえる地域づくりを推進するために小学生と高齢者が参加する物作り教室を行い、世代間交流の機会を提供することができた。 地域特性に沿ったフレイル予防を推進するため、JAGESで地域住民の交流が少ないという地域特性を把握し、ニコニコ教室で講和のテーマに取り入れれたり、閉じこもりがちな人に教室への参加を呼び掛けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い世代のかたの高齢者や認知症に対する理解を高めるため、地域住民への認知症サポーター養成講座の開催がされるよう支援する。 新型コロナウイルス感染症により活動ができていないサロン等へ、活動再開・継続に向け、小規模でもできる活動等の提案ができるよう支援する。
柏西口第2	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の本人やその介護者家族の交流・相談の場として、認知症カフェをフリースクールで開催し、地域における居場所の創出に努めた。 地域住民がケアマネジャーや通所サービスを選択しやすいよう、事業所の特徴等をまとめた「居宅介護支援事業所ガイド」と「通所介護事業所ガイド」を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症のかたやその介護者家族のための居場所として、認知症カフェが継続して実施できるよう支援する。 地域課題の分析結果を可視化し、地域住民と課題を共有し、課題解決に向けた意見交換ができるよう支援する。
柏東口	<ul style="list-style-type: none"> 地域における認知症理解の普及啓発のため、地域関係者と意見交換を実施し、オレンジベンチの設置やオレンジフレズの活用の推進に努めた。 ケアマネジャーからの支援困難事例について、多機関との連携を図り、問題解決を図ることができた。 コロナ禍でもフレイル予防に取り組めるよう老人会での清掃活動の機会を捉え、ラジオ体操を実施し、自主的な活動へつなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> オレンジベンチの取り組みを拡大し、令和3年度より毎月開催する認知症カフェをオレンジフレズの協力のもと実施できるよう支援する。 総合相談やJAGES、地域ケア会議等から地域課題を分析し、地域住民と共有し、事業へ反映できるよう支援する。
柏東口第2	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャーの高齢者虐待についての理解促進を図るため、虐待の実情やセンターとの連携の必要性をまとめた資料を送付し、虐待の早期発見につながるよう努めた。 新規サービス利用時に、生活援助サービスが該当するかたへ訪問型サービスAの利用が適当かを必ず検討することで、訪問型サービスAの利用を促進できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民に介護予防・自立支援に関する意識の共有を図っていくとともに、地域におけるフレイル予防の自主活動の立ち上げができるよう支援する。 地域における認知症理解の普及啓発を図るため、小学生やその親世代に対してアルツハイマーデーを通して啓発を行い、また、郵便局や配食事業者等へ積極的に働きかけ、認知症サポーター養成講座を実施できるよう支援する。
光ヶ丘	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援に向け、地域のインフォーマルサービスのケアプランへの位置付けを促進できた。 高齢者の権利擁護業務に社会福祉士以外の主任ケアマネジャーや保健師等の医療職が積極的に関わり、問題解決に向けた支援ができた。 認知症本人の活躍の場や、家族の交流の場として認知症カフェを開催した。また、住民主体の介護者交流会の立ち上げに向けた働きかけを行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談の分析を詳細に行い、各事業の計画に反映できるよう支援する。 町会での認知症サポーター養成講座の開催やSOSネットワーク協力事業所の登録を勧め、地域で認知症の方を見守る目を増やせるよう支援する。 担当地域内の医療機関、商店等に対しセンターの周知に努め、早い段階で相談に繋がるようなネットワークを構築できるよう支援する。 地域の町会等と介護予防・自立支援に関する意識を共有し、また、センターの周知が図れるよう支援していく。
柏南部	<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療介護の関係者と協働し、南部地域における多職種交流会を企画し、医療と介護の円滑な連携が図れるよう努めた。 「認知症パトワーク」の実現に向けて地域住民と意見交換を実施し、南部地域の小学校防犯パトロールと連動した認知症の見守り体制の構築につなげた。 ほけん便りをツールに積極的に地域に出向き、サロン参加者に対しミニ講座を実施し、積極的なフレイル予防の普及啓発ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談の分析を詳細に行い、各事業の計画に反映できるよう支援する。 認知症のかたの見守り体制を地域の方々とともにを行い、認知症の早期発見や医療との連携をはかれるよう支援する。 「カシワニオレンジステッカー」事業所と「かしわオレンジSOSネットワーク」協力事業所の登録を一体的に勧めるよう支援する。 消費者被害予防の啓発について、消費者被害に関する情報を民生委員等へ情報提供ができるよう支援する。
柏南部第2	<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療介護の関係者と協働し、南部地域における多職種交流会を企画し、医療と介護の円滑な連携が図れるよう努めた。 助けあい団体とケアマネジャーが円滑に連携できるよう、助けあい団体・ケアマネジャー・地区社協・支えあい推進員・ふる協と交流会を定期開催し、受付票とフローチャートを作成できた。 生活支援コーディネーター・地域・地区社協・センター合同で連絡調整会議「G5」を立ち上げ、定期的な会議を開催し、地域の情報・ニーズ・課題について共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談の分析を詳細に行い、各事業の計画に反映できるよう支援する。 地域課題の整理を行い、ケース抽出を円滑に行うことで地域ケア会議が計画的に実施されるように支援する。 「カシワニオレンジステッカー」事業所と「かしわオレンジSOSネットワーク」協力事業所の登録を一体的に勧めるよう支援する。
沼南	<ul style="list-style-type: none"> オーラルフレイルの重要性について理解を促進するために、介護予防講座の開催やオーラルフレイルの傾向があるかたに啓発資料を送付することでオーラルフレイルの行動変容につなげることができた。 高齢者虐待事例及び虐待が疑われる事例への対応を明確にするために、対応のフローチャートを作成することで迅速に書類提出をする体制づくりができた。 地域における高齢者のニーズや社会資源について支えあい会議にて協議し、子ども食堂の立ち上げにつなげることができた。また、支えあい推進員と協働し新しい通いの場の候補を挙げることもできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談の分析を詳細に行い、各事業の計画に反映できるよう支援する。 地域課題の整理を行い、ケース抽出を円滑に行うことで地域ケア会議が計画的に実施されるように支援する。